

おきょうづかいせき 御経塚遺跡

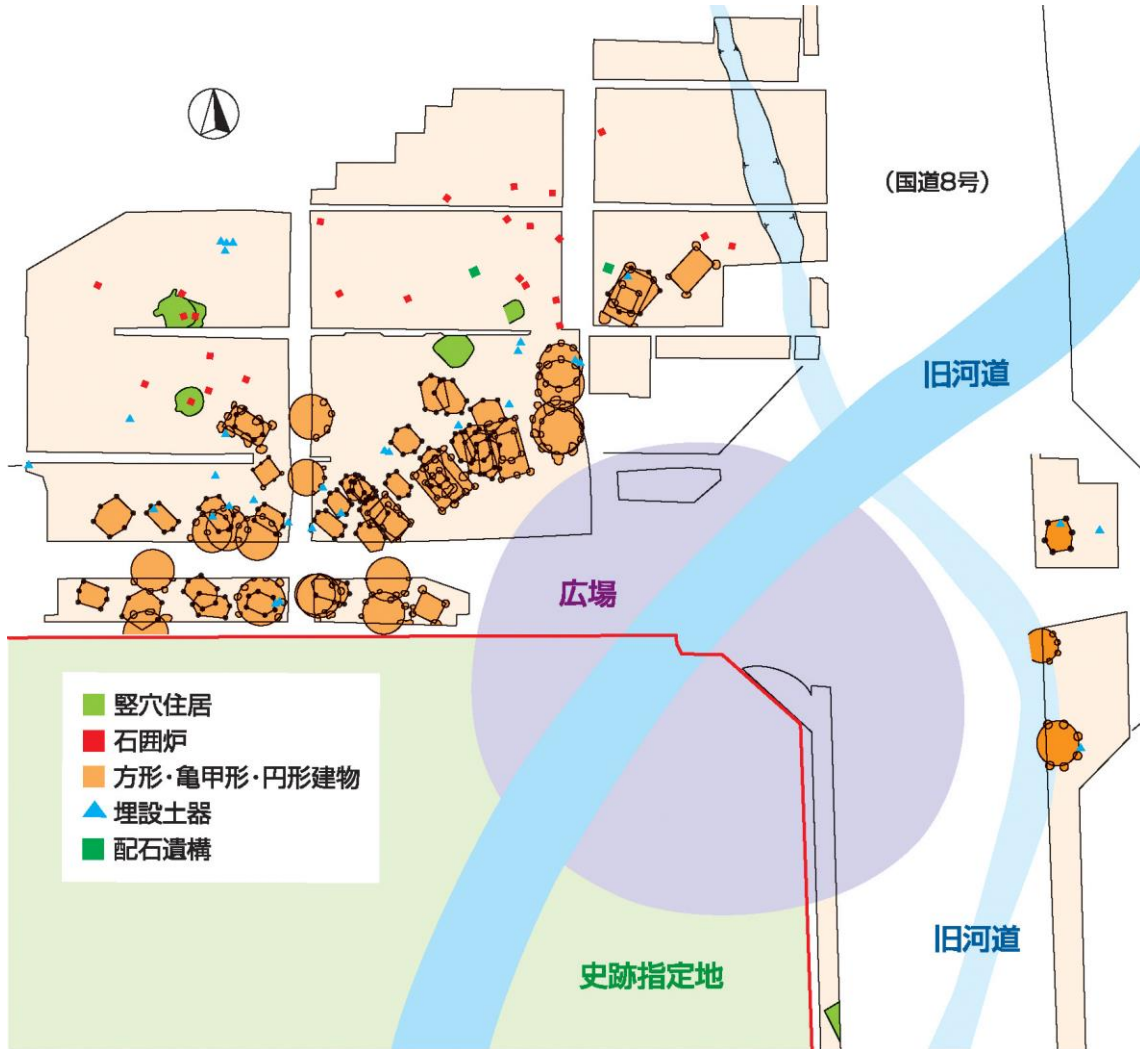
御経塚遺跡は縄文時代後期中葉^{こうきちゅうよう}～弥生時代初頭(3,700～2,500年前頃)にかけて存続した集落です。

遺跡の存在は明治時代から知られていましたが、1954年(昭和29)に中学生によって土器や石器が発見され、遺跡の所在地が判明しました。1956年(昭和31)に行われた第1次発掘調査では御物石器^{ぎよぶつ}の埋納遺構^{まいのう}の発見や、出土した土器の研究から北陸地方で晩期前半^{ばんき}(3,300年前頃)の指標となる御経塚式土器が設定され注目を集めました。

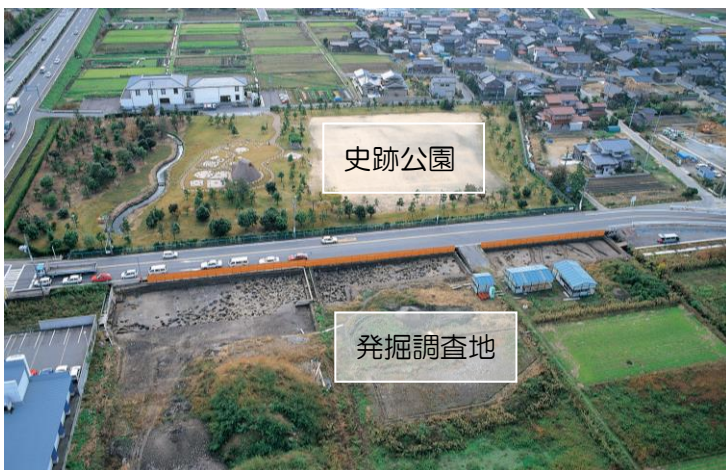
1956～96年(昭和31～平成8)にかけて行われた28次にわたる発掘調査によって、集落は中心部に共同の祭祀・集会の広場^{さいし}をもち、その周りを住居が環状^{かんじょう}に囲み外縁部は墓域^{ぼいき}となる構造が分かりました。住まいについても、縄文時代後期は竪穴住居^{たてあなじゅうきよ}であったものが、晩期からは掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}に変化することが確認されました。一時期の集落は2～3棟の住まいが一群となり全体で5～6群ほどが展開し、人口は60～100人ほどと推定されています。

出土した土器、石器はおびただしい数にのぼります。食物を煮炊き^{にた}した土器や、木の実を磨りつぶした磨石^{すりいし}と石皿^{いしざら}、狩猟^{しゅりょう}に用いた石鏃^{せきぞく}、祭祀・儀礼^{さいし}・呪術^{じゅじゆつ}に用いた道具^{どくう}の土偶や不思議な石製品の石棒^{せきぼう}、石冠^{せつ}、御物石器などは当時の生活をしのばせる貴重なものです。また、

にいがたけんいといがわ
 東北地方と同じ文様が描かれた土器や新潟県系魚川産のヒスイの玉
 類から、人々の移動や交易を知ることができます。



御経塚遺跡主要遺構略図



上空からみた史跡公園と発掘調査地 北から
 1992年（平成4）



調査に参加した人々 1975年（昭和50）